



石原社長定例記者会見概要

6月5日午後3時から、石原社長による定例記者会見が、放送センター20階役員大会議室で開かれました。概要は以下のとおりです。

<編成関連>

上期のここまでの視聴率は、なかなか厳しい状況が続いているが、これまで苦戦していた日曜の20時枠の新番組、『駆け込みドクター！』が今後期待できるスタートをするなど、明るい面も出てきている。制作現場も必死に各番組の企画強化に取り組んでいるので、今後期待している。今月は大型特番を積極的に編成していく予定だ。

また、JNN系列全体で取り組んでいる大型プロジェクト『未来遺産』は、4月と5月に『命の輝きスペシャル』を放送したが、視聴率的にもこの種の番組としては健闘した。特に、「生命」というテーマに真正面から取り組んだ内容には、多くの視聴者から高い評価を頂いた。続く第三弾は、今月19日に『家族の力が奇跡を呼ぶ 夢スペシャル』を放送する。スポーツ選手を支える妻たちや、アスリートを夢見る子供たちの懸命な姿を追いかけた感動のドキュメンタリー番組だ。今後とも質の高い番組を制作し、視聴者の期待に応えていきたい。

夏の『世界陸上モスクワ大会』では、地上波、BS、CS、インターネットなど、各メディアを駆使して、「世陸」の魅力を余すことなくお伝えする。100メートル10秒01を記録した高校生の桐生祥秀選手や、ディーン元気選手など若手も出てきているので、大変楽しみである。来週10日にはサカスギャラリーで日本代表の発表記者会見を行う予定だ。

<営業関連>

4月のセールスは、タイム、スポットともに、前年実績に届かなかった。

ネットタイムは、レギュラーセールスが2012年度下期並みの売上を確保した。去年は三夜連続ドラマ『ブラックボード』などの大型単発があったが、今年は単発としてはマスターズ以外目立ったものがなかったため、前年実績には届かなかった。ローカルタイムはレギュラーセールス、単発セールスともに好調で前年実績を上回った。今後は、8月に今年度最大のスポーツイベント『世界陸上モスクワ大会』があるので、下期の改編セールスまではそのセールスがメインとなる。また9月にはベトナムとの大型共同制作ドラマ『パートナー』があるので、そのセールスにも力を入れていく。

4月のスポットセールスは、前年度が震災の影響の反動で3割近いアップとなっていたこともあり、今年度はその実績には届かず、前年比95%弱で着地した。5月も同じく前年実績には届かない見込みだが、6月以降は前年比100%を超える売上が見えてきている。特に参議院選挙を控えた7月までが上期のスポットの正念場になる。

＜事業関連＞

舞台では、来月「ヴィーナス・イン・ファー」を Bunkamura シアターコクーンで上演する。稲垣吾郎、中越典子の 2 人芝居で、マゾッホの異色小説「毛皮を着た ヴィーナス」を下敷きにした作品だ。米倉涼子のブロードウェイデビューで大きな話題になったミュージカル「CHICAGO」の演出家、ウォルター・ボビーの最新作となる。

宝塚歌劇ともタッグを組む。花組公演ミュージカル・ロマン「戦国 BASARA (せんごくバサラ)」に出資・共催して、来月東急シアターオーブにて上演する。330 万本以上を売り上げた大ヒットテレビゲームのミュージカル化で、来年の宝塚 100 周年の先駆けとして大きな話題となっている。

デジタル事業では、海外で人気の番組『SASUKE』をモチーフにしたスマホ向けのゲーム「Ninja Warrior Game」の配信を北米で始めた。日本のスポーツバラエティ番組が、海外での人気と知名度を生かして海外市場向けにゲーム化するというのは、これまでにない取り組みであり、今後は、ヨーロッパやアジアなどにも展開していきたい。

＜夏サカス＞

今年 6 回目の夏サカスのコンセプトは、看板番組による「食のおもてなし」。料理を楽しんでいただくということで、「デリシャス」と「サカス」をかけ、「笑顔の扉デリシャカス」と銘打つ。番組ごとのオリジナルレシピを楽しんで頂けるように、サカス広場に番組コラボブースを並べ、一流の料理人たちが趣向を凝らした料理をお届けする。放送センター 1 階には、持ち帰り用の「デリシャカスお土産ショップ」も開店する。

さらに、『炎の体育会 TV』のミリオンスプーン、『オールスター感謝祭』のクイズなどが体験できるアトラクションや、『リアル脱出ゲーム TV』とコラボした参加型イベント「東京爆弾包囲網からの脱出」を毎日開催する。夏休みには家族揃って足を運んで頂きたい。

＜スカイツリー送信所移転＞

当初の予定通り、東京スカイツリーへ送信所を完全に移転することができ、視聴者や総務省をはじめ関係各方面のご理解、ご協力に感謝する。移転後の受信障害については、特に大きな混乱や苦情はないと聞いており、短期間で解消できると考えている。

＜ラジオ関連＞ TBSR&C 入江社長

2012 年度の決算は減収減益という結果に終わった。今年度は営業利益ベースでの増収増益を目指し予算立てしている。4 月に入ってから動きとしては、タイムは前年比 100%をクリアしたが、スポットは苦戦。5 月以降も動きが読めず、楽観は許されない状況。4 月首都圏個人聴取率調査の結果、TBS ラジオは週平均 1.3%をキープし、2001 年 8 月以降連続首位の記録を更新した。一方セットインユースは前回から 0.2 ポイントダウン、昨年 4 月から 0.3 ポイントダウンしており、ラジオ全体の聴取率は厳しい状況。

昨年末放送の『小沢昭一さん追悼特別番組～あしたのこころだ…小沢昭一について考える』が第 50 回ギャラクシー賞ラジオ部門 特別賞を受賞した。また震災後の被災地取材した特別番組『希望と、絶望と～南三陸町防災対策庁舎 ある遺族の葛藤～』が奨励賞を受賞している。

以上